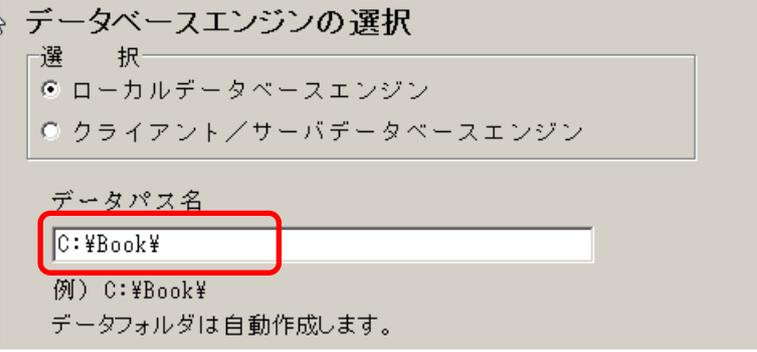


ネットワークによる運用

1. はじめに

“らくらく図書館”のデータは、“Book”というフォルダの中にあります。

このソフトの基本的な運用はデータベース名を次の例のように設定して運用しますが、下記に説明する方法でネットワークでの運用も可能です。



データベースエンジンの選択

選 択

- ローカルデータベースエンジン
- クライアント/サーバデータベースエンジン

データベース名

C:¥Book¥

例) C:¥Book¥

データフォルダは自動作成します。

2. データ共有による運用

最も簡単なネットワークでの運用形態は、1台のパソコン（ホスト）に一台または複数の子パソコン（ゲスト）を繋いで運用する方法があります。

また、リンクステーションや windows サーバーパソコンを用意して、複数のパソコン（クライアント）で運用する方法もあります。

上記の方法は、“Book”フォルダを共有することによる運用できます。

データベース名は、下記例のように論理パス名で指定してください。



データベースエンジンの選択

選 択

- ローカルデータベースエンジン
- クライアント/サーバデータベースエンジン

データベース名

¥¥LS210D725¥share¥Book

例) C:¥Book¥

データフォルダは自動作成します。

3. 中規模での運用について

図書のデータ数が数万件を超えてくると、“データ共有型”の運用は検索速度などが遅くなります。

このような場合、比較的簡単にクライアント/サーバー型の運用ができるようにしています。

設定方法は、“HPの説明文書”を読んでください。

データベースエンジンの選択

選 択

ローカルデータベースエンジン

クライアント/サーバデータベースエンジン

グレーは【既定値】

UserName	Admin	Admin
UserPW	DBAdmin	DBAdmin
HostName	SV	例) Sever1
PortNo	12005	12005
DataBaseName	Book	Book

まず先にサーバ側の設定をしてください。マニュアルまたは、HPの説明を読んでください。

HPの説明文書

4. 運用上の注意点

- ✚ ネットワークの環境は、運用者の責任の下に維持管理してください。
電話やリモートメンテナンスによる当社でのアドバイスや不具合対応は出来ないことをご了承ください。
- ✚ ネットワークによる運用は、単独運用に比べて格段にリスクが大きいことを前提に、データのバックアップコピーは頻繁に行ってください。
- ✚ ネットワーク運用の基本ルールですが、親機パソコンまたはサーバーパソコンを最初に起動して、一番最後に電源を落としてください。特に運用途中に親パソコンやサーバーパソコンがダウンすると、データ破損を起こします。
- ✚ なお、大規模な図書館での運用の場合は、他社の図書館ソフトを検討してください。